

写真記録

チェルノブイリと福島

人々に何が起きたか

CHERNOBYL & FUKUSHIMA
BY RYUICHI HIROKAWA

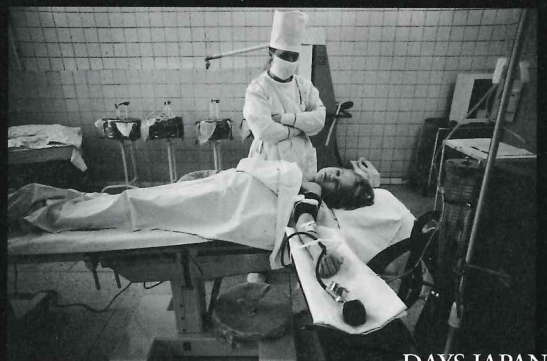
広河隆一

甲
第
307
号
証

チェルノブイリ30年、福島5年 命の記録集

「広河さんの写真と言葉が伝える、
ひとりひとりの個人に即した事実の力は、
私たちを感動させ絶句させることで
行動へと導く」

谷川俊太郎



DAYS JAPAN

DAYS JAPAN

広河隆一 ●ひろかわ・りゅういち

フォトジャーナリスト

月刊誌DAYS JAPAN発行人

DAYS被災児童支援募金代表

認定NPO法人「沖縄・球美の里」名誉理事長

チェルノブイリ子ども基金設立代表

パレスチナの子どもの里親運動設立代表・現顧問

1943年中国・天津市に生まれる。3歳のときに日本に引き揚げ。67年、早稲田大学を卒業後イスラエルに渡る。帰国後フォトジャーナリストとしてレバノンなど中東諸国を何度も取材し、レバノン戦争とパレスチナ・キャンプ虐殺事件の記録で82年により写真大賞、83年にIOJ国際報道写真コンテストの大賞・金賞を受賞。チェルノブイリの被災地、ウラルの核惨事現場などは、世界に先駆けて報道。講談社版の「DAYS JAPAN」の核被害報告で89年講談社出版文化賞を受賞。90年、湾岸戦争の取材を開始。その後もパレスチナ問題、チェルノブイリ問題を追い、9・11事件の後はアフガニスタン戦争、イラク戦争を取材。2004年に講談社時代の昔の仲間と報道写真誌「DAYS JAPAN」を再刊し、編集長を務める。3・11後は震災翌日から福島県に入り、取材を開始。同時にDAYS放射能測定器支援募金、DAYS被災児童支援募金をたち上げる。12年に福島の子どもの保養施設として沖縄県久米島に認定NPO法人「沖縄・球美の里」設立。14年に「DAYS JAPAN」編集長を退任、発行人兼フォトジャーナリストになり現在も取材活動、救援活動続ける。

著書に「新版パレスチナ」(岩波新書)、「福島 原発と人びと」(小学館)、「チェルノブイリ消えた458の村」[写真記録・パレスチナ](以上日本図書センター)、「暴走する原発―チェルノブイリから福島へ」(小学館)、「新・人間の戦場」「帰還の坑道」(以上DAYS JAPAN)など多数。ドキュメンタリー映画「広河隆一…人間の戦場」が2015年12月全国公開。

写真記録

チェルノブイリと福島

人々に何が起きたか

広河隆一・編著

2016年3月1日 第1刷発行

デザイン……………川島進(川島進デザイン室)

DTP制作……………月・姫株式会社、小島亜佳莉(広河隆一事務所)

発行者……………広河隆一

発 行……………株式会社デイズジャパン

〒156-0043 東京都世田谷区松原1-37-10-302

電話03-3322-0233 FAX03-3322-0353

<http://www.daysjapan.net>

印刷・製本……………株式会社シナノ

本書を無断で複写・転載することが法律で認められている場合を除き、著作権および出版社の権利の侵害になりますので、その場合にはあらかじめ株式会社デイズジャパン宛に許諾を求めてください。

ISBN 978-4-9901982-5-1 C0072 190×215

©DAYS JAPAN, 2016